

文教厚生委員会会議録（要点筆記）

平成25年 2月 5日（火）

午前9時30分 開会

○小出義一委員長

ただ今より、文教厚生委員会を開会します。閉会中の調査事項についてを議題とします。

先日の行政視察ではお疲れさまでした。いろんな点、気づく所を汲み取っていただき報告していただきました。その内容について補足をしていただきながら、感想をお聞きしたいと思います。

○山本博信委員

【視察報告書に基づき説明】

○中村宗雄委員

【視察報告書に基づき説明】

○山内悟委員

【視察報告書に基づき説明】

○久世孝宏委員

【視察報告書に基づき説明】

○山田清一委員

【視察報告書に基づき説明】

○大坪子育て支援部長

【視察報告書に基づき説明】

○岩田玲子副委員長

【視察報告書に基づき説明】

○小出義一委員長

【視察報告書に基づき説明】

今までの皆さんからの意見に対して関連的に発言がありましたらお願いします。

○山田清一委員

1点お聞きしたいのですが、知多市のわっふるさんは、常設でやっていますが、半田市でも集いの広場とか親子ひろばなど自主的な活動をされている方が点在しているかと思います。週に1回とか月に1回とかそういった団体さんはどのくらいあってどのような活動を自主的にやっているのか教えていただきたいと思います。

○江原子育て支援課長

以前、資料を提出させていただきましたが、地域に15、16か所だったと思いますが、やっていただいています。週に1回という所から月に1回という所で、どちらかというとお母さん達の交流の場というのが中心と思っています。8月2日の資料の8番の子育てサロンの状況ということで、各小学校別にサロンの名前、活動内容、活動場所の一覧をつけさせていただきましたので、ご参照いただければと思います。

○中村宗雄委員

お聞きしたいのですが、東浦の問題をどう整理してよいか自分の中でもわからなくて、有料の所と無料の所がある。有料の所の人達がたくさん給料をもらっていて、無料の所の人達が結構大変という事なら普通の市民感覚で分かりますが、有料の所が月に1万円とかボラン

ティアのような存続不可能のような仕組みでやっている、もうひとつの子育て支援センターは何億の建築費をかけて臨職か正職かわかりませんが賃金ベースで言ったら15倍や20倍もらってやっている。市民の方が見た時にやっぱり無料だと思うのか、有料でやっている方がアウトサイダーで外れているのか、どちらが正しい形なんだろうと。以前保育士をやっていて、自分達がやらなければとやっている人達があれば冷遇されている。今回のテーマをまとめて委員会報告を作っていく中でどうなのかと。半田市はどういう考え方で進めるのかという事を市民の方と共有してやっていかななくてはいけないと思いますが、どのように整理をしていくのか、その考え方を聞かせていただきたい。

○江原子育て支援課長

東浦町の例でいきますと、子育て支援拠点事業という事で、立派な子育て支援センターを建てて、その中で公がやっている部分がひとつ。それからご覧いただいた公的な施設を活用しながらも民でやっているものがひとつ。公が拠点事業として整備するという意味では、両方全く一緒にやり方が民へ委託するか公が直営でやるかの違いだと思っています。あるレベルまで、ある部分までは行政が整備する、それに必要な費用は投資するべきだと思いましたが。費用を徴収するかどうかという事も、公が整備する以上、議論があるところだと思っていますが、あるレベルまでのところについては、公が無料でやるという考え方でいけば、無料でやってくださいと、基本以上のサービスをされるという事でオプションでやられるのであれば、費用負担というのは、当然有りと思っています。

○中村宗雄委員

品川のおばちゃん家と東浦のあんだんてのおばちゃん達は本質は同じだと思います。ただ、行政の対応が違うだけ。半田市はどちら側になるのかと思っただけで、必要以上の事にチャージをかけるというのは、当たり前的事だと思いましたが、かかっているコストが同じなのに民間の人のやる気をなぜ支えてあげないのかと思う部分と逆にその部分は手を出すな、貴方達の仕事では無いという話であれば別ですが、その辺りの理念的なところを決めて半田市もやっていかないと、やる気のある人達が冷遇されたり、行政に近い民間の人達だけとやっていく仕組みでは無いと思ったものですから、出来れば半田市もおばちゃん家のように寛容的にやってもらえるといい。ですから、最後のまとめの部分はその辺りの理念をしっかりとすべきだと思いました。

○大坪子育て支援部長

私も難しいと思っています。おばちゃん家はかなり市からも補助金などをもらっているし、それから従事している人達も臨職くらいの賃金はもらって見える。サービスもそんなにお金をとってなかったと思います。それと比べると東浦のケースは、ちょっと違うのかなという思いはしています。東浦はやっている人達が凄く熱意があって、お金の問題ではなく自分達がやりたいという一心で一生涯懸命やってくれている気がします。半田市は子育て支援センターにひとつと子ども園の方にひとつという状況で、これをもう少し各地域にという考えを持っていますし、それを進めていくという大前提としては市が主体となってやっていく必要がある、そこで、東浦のあんだんてのような熱意のある人達がやってくれれば凄くありがたいと思います。ただ、組織的にはあんだんてのようなやり方は多分難しい。しっかり費用面も含めてやっていかななくてはならないと思っています。

○小出義一委員長

せっかく、いい題材といたしますか、ここを整理していかないと委員会としてのまとめにならないのかという気がしますので、委員の方のご意見を聞きたいと思います。

○中村宗雄委員

子育て支援の拠点が重要で必要だというのは当たり前の話なんです、誰が、いつ、何処で誰の金でどういう運営形態でやるという話になると組み合わせはかなりあるわけです。この委員会でまとめなければいけないのは、いくつ必要だとかどういう形態でやるべきだとかそんな事では無いと思います。どういう考え方で進めるかという事を提案して、その理念を市民の方と共有して、そういう考え方だったら手伝えるという人を掘り起こすような委員会報告をまとめないと。理念でも概念でも基本方針でも言葉は何でもいいですが、半田市はこういうことだというものを作る。それを市民の方と共有することの二つができないと勝手にうちはこういうつもりでやっています、決定事項ですと言われても困ってしまいます。決定事項でない中で決定して、その中で民間の人達がそういう考えなら賛同できるし自分の能力も使ってくれという人が出てくるような、そういう既存の方達で拠点が出来てくるといいと思います。それが最終形だと思いますので、出来ればそういう方向を一度検討してもらいたいと思いました。

○小出義一委員長

数値的な基準やいくら出せとかという話では無いと私も思っていました。知多市は公がやる部分のスタンスとして組織づくりの後押しだという事を言ってみえたところに、行政としての理念的なものを感じました。

○山本博信委員

知多市で学んだ事ですが、ネットワークづくり、連携づくりをしっかりと、子育て支援の役割を果たしているという事が良かったと思います。半田市においてもしっかりとした理念を持つ事。これは総合計画にあるだろうと思いますが、それに基づいてネットワークや連携を強めてより効果的な施策を進めていく事が大事だと思います。この連携がしっかりといけば、東浦のあんだんてのような悲惨なと言っははいませんが、あのような事にはならないと思いますし、民間でやりたいという強い思いを持って働いていただける方が出てこられても、上手く対応出来るという気がしました。しっかりとした理念と連携。それに基づく有効な施策をしっかりとやっていけば良いという気がしました。

○小出義一委員長

どんな理念でまとめていけば、その点はいかがでしょうか。

○山本博信委員

理念は総合計画の中にあると思いますけれど、それが良くわかるような形で説明をしていただければありがたいと思います。その理念を話し合う事も有意義な事だとは感じます。

○久世孝宏委員

やっぱり理念があって、そのためにどのような事が必要なのかをひも解いて、物事を組み立てて行って欲しいという希望がある中で、そうなる何故子育て支援が必要なのかという最初に戻りますが、そこは重要だという事は置いておいて、それに対してどのような成果か見えてこない、なかなか難しいと思っているので、そこをはっきりさせて欲しいと今でも思っています。半田市がこういう子育て支援をしていくという理念が出来たときに、そこから外れる部分については、いくら市民にやる気があっても補助金だとかお金を出す必要は無

いのかなと、多少は出してもいいかも知れませんが、そういう考えで行っていただければ良いと思いますが、市民のやる気が出てくる部分というのは、市民ニーズが非常にある部分なので、その辺りを汲みながら理念を組んでいって欲しい。そこで目指す方向と外れている部分に対しては、目指している部分とお金の出方が違ってくるのは、それで線引きが出来ると思っています。拠点の数の部分でもともと中学校区にひとつという話の中で、本当にそれでいいのかどうかという所には踏み込んで行って欲しいと思います。数をどれだけという事までは言わないにしても本当に中学校区にひとつという考え方でいいのかという部分には私は踏み込んでいって欲しいと思っています。

○小出義一委員長

ほかにありませんか。それでは行政視察に関する事については、この程度にさせていただきたいと思います。現実、半田市もいろいろ子育て施策を展開してきています。先般のアンケートをとってみると、その中でも子育てに不安を感じる、ストレスがある、いろいろ悩みがあるというような事で、どこまでが十分だという事はわかりませんが、更にそこを見直しながらやっていかなければならないというところが本委員会の調査の持って行き先と思っております。アンケートから何が求められているかという所を検証しながら、今回の調査を少し振り返ったまとめをしていきたいと思っております。そういう意味で先ほどから出ておりました理念的な部分が非常に大事だと、数ではなくてどういう子育てを行政がサポートしていくのか、子育て家庭が不安に思っているところは何か、家庭が不安に思っている事を地域がどう育てるかという事が理念づくりの基なのかなと思いました。地域で育てる行政がやり過ぎないというのも大事だと思っております。そういった内容をもう少し浮き彫りにさせながら、まとめをしていきたいと思っておりますが、特に皆さんの中でこういう点についてまとめていかなければならないという事がありましたら、お聞きしていきたいと思っております。お願いします。

○中村宗雄委員

きっと理念を皆で作ろうなんて言っても総合計画で理念が謳ってあるわけですから、理念はそれで良いと思います。理念を実現するための基本方針を4本から5本くらいで支えるような形にしたら分かり易いと思います。例えば、子育て支援は、民間中心でいくとかそういう方針を。中学校区にひとつ作るとか、なぜならという理由もあって5つくらいの方針でまとめれば凄く分かり易くなると思います。どんな方針を打ち出して理念を達成するかという方が分かり易いと思います。大きな言葉でくくってしまうと大事だとか社会現象という話で終わってしまいますので、具体的な方針をまとめていくと分かり易いと思います。

○岩田玲子副委員長

あんだんてさんの視察で課長が言っていた事ですが、地域に12か所ほどの組織があつてそこへ話に言ったという事でしたが、それは地域の活用を目指しているという事だと思いますが、方向性というのは決まっているのでしょうか。

○江原子育て支援課長

昨年度、地域で15から16か所サロンをやっているという事でそこを回らせていただいて、その方達がどういう思いでどういう人達を対象にどういう事を行っているのかという事をざっくばらんに話を聞きたいという事で回らせていただきました。ただ、その時点では、これをやろうという事ではなくて地域における子育て支援というのは、そういう人達の所を

中心にしながら、行政が支えるべき所は支えていくという事で何か思いだとか課題だとか行政にして欲しい事だとかそういったところを端的に聞きたいと思って回りました。今回、理念を作って、基本方針を作って、正に具体的なプランを作っていき事になるのですが、その時にはもう一度その視点でもう一回お話を聞いてみたいという気はしていますけれど、昨年度回った事がベースにはありますが思いとして既にプランとして出来ているものはありません。

○小出義一委員長

ベースに出来るという情報についてまた提出していただければありがたいと思います。

具体的な方針をという事で中村委員から提案がありました。振り返っていろいろな発言が委員の皆さんからありました。基本方針に出来そうな内容については、今までの委員会を振り返ると出てくるのかなと思いますので、一度その点については整理したいと思います。それに基づいて皆さんの意見をお聞きして整理して形を作っていけたらと思っております。恐らくそれが一番幹になる部分でしょうけれど、少し分野をどこまで広げていくのかと、拠点づくりの他に支援すべき事はいくつかあったかと思えます。委員会を調査していく間にもっと緊急性の高い24時間対応が必要だとか妊娠している段階から追跡調査が必要だとかという事も視察の中でお聞きしましたが、その点については皆さんどのように感じてみえるのか、子育て支援の一環としてもう少し踏み込んでいくべきかどうか、その点についてどのようにお考えかお聞きしたいと思います。

○山田清一委員

私は拠点づくりという事と気軽に相談出来る体制づくり、ここに絞れば良いと思います。更に言えば継続的な地域における支援体制ぐらいで留めておけばいいと思います。更に踏み込むとすれば、本来はそこに集う事が出来ない家庭の方が課題は大きいわけですか、そこまでひろげてしまうと非常に広げ過ぎだと思いますので、拠点づくり、気軽に相談出来る体制、その程度に留めても十分ではないかと思えます。

○中村宗雄委員

そこも基本方針の中に折り込んでいけば良いと思いますが、十分自分達で出来ている人達から全く出来ていない人達まで幅がありますので、どこをターゲットにしてやっていくかという事でやっていく事が変わってくると思います。どうなっちゃうか分からない人達をターゲットにするのか、その部分ではなくてミドルの一番多い所に絞っていくのかを決めていかないと全部ケアするなんて事は出来ないと思います。別に切り捨てるという話ではなくて、その辺りも決めていかないと絵に描いた餅になってしまう。半田市の子育て支援というのはどの範囲をやるのかという事を決めていかないといけないと思います。

○小出義一委員長

少しずつ具体的にまとめ方の考え方についてご意見を伺っております。更にあればお願いします。

○山本博信委員

視察も終わり、各委員の意見も出尽くしているのでも、委員会報告を作るというのでしたら、骨格を示していただいて諮っていただいた方が時間的にも良いと思います。

○小出義一委員長

もちろん正副委員長でたたき台になるものを作らせていただきます。ただ、その揉み方

をどういう点で揉むのか、具体的な基本方針をどう盛り込むのか、考え方、それから範囲、その点についてご意見を伺いましたので、もう少しこういう点について留意がいるというご意見があればお聞きしたいと思ひますし、たたき台になるものが出てくるまでに委員の皆さんお考えいただいてその時点でそこに付け加えていただいてもいいと思ひています。

現時点でお聞き出来る事があればお聞きしておく整理がしやすいので、もう少し何かありましたらお願いしたいと思ひます。

○久世孝宏委員

基本方針を決めようという話でいくと、そもそもテーマが地域における子育て支援の推進について、サブテーマとして、親子が安らげる交流拠点づくりというものまでは導き出していた。これはひとつの方針になると思ひます。その背景としては、社会性が希薄になっている、それから児童虐待とかをなるべく早期に目を摘もうと、そのためには親を支援しなければいけないし、相談体制が必要だという事から親子が安らげる拠点、集まれる場所が必要という事からこのテーマが始まった。それがもし大きくズレていないなら、方針はこれになるだろうと思ひます。これに沿って今まで学んできたことで提言が出来るような内容がある程度つけていけると良いと思ひます。親子が安らげる交流の拠点を作るにあたって課題は何かというところを一度洗い出してみるといいと思ひます。元々漠然と言われていたのが場所、それから人材、それにともなうお金、それから来ない人をどうするか、それに対してどういう方針でいくのか。それから先をどうするかというところで、皆さんからいろいろな意見が出ていて、民間と行政の住み分けをどうするのかとか、やる気の面をどう育てていくのか、ネットワークで情報交換をしていく必要があるのではないかとこの部分が具体的とは言わないにしても、ザックリとした提言になっていくのかなと思ひます。

○小出義一委員長

概ね、久世委員がおっしゃってみえたような事を整理して報告書をまとめていきたいと思ひます。

しばらく休憩します。

休憩 午前10時20分

再開 午前10時22分

○小出義一委員長

委員会を再開します。

委員会のまとめにつきましては、皆さんのご意向も汲みながらまとめていきたいと思ひます。3月中にはたたき台を作って、それに対して皆さんにご意見を伺う機会を作りたいと思ひます。そういったスケジュールで進めたいと思ひますが、ご異議ございませんか。

【「異議なし」との声あり】

ないようですので、たたき台的なものが早く出来れば早めに出して、3月中には一定の方向が出せるような進め方をしていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

それでは、その他を議題とします。何かありましたらお願ひします。

【「なし」との声あり】

ないようですので、これで文教厚生委員会を閉会します。

終了 午前10時25分